

山口 東

東山口支局
☎ 0834-21-0321
FAX 0834-21-0318
周南市梅園町2丁目
岩国 ☎ 0827-24-3113
柳井 ☎ 0820-22-0548
山口総局
☎ 083-922-0135
メール s-yamaguchi@asahi.com

購読 配達のご用は
0120-33-0843 (7~21時)
広告のご用は
朝日広告社 083-972-5660
オリコムのご用は
徳山 0834-31-7677

きょうの天気

6~12時 降水確率 12~18時	
10 下関 0	0
10 萩山 0	0
10 山口 0	0
10 下松・周南 0	0
10 岩国 0	0
下関 西西北西 0	0
萩山 西西北西 0	0
山口 西西南西 0	0
温度 40%	
西温 14度 最高 14度 最低 5度	5度
下萩山 15度 15度 5度 5度	5度
岩国 15度 15度 5度 5度	5度

あす

西 0	0
南西 0	0
岩国 0	0
湿度 60%	
西温 14度 最高 14度 最低 5度	5度
下萩山 15度 15度 5度 5度	5度
岩国 15度 15度 5度 5度	5度

4月9日 4月10日
旧2月24日 旧2月25日
5.51 5.50
18.41 18.42
1.43 2.26
12.08 13.01
22.6 23.6



換気設備を見学する家族連れ=下関市

海峡異界 深さ70メートル「別の道」

開通から60年を迎えた関門トンネルの設備の見学会が7日、下関市であった。子ども連れ62組169人から抽選で7組18人が参加。関係者以外は行けない場所を熱心に見て回った。

まずは、人道入り口そばへ。送風機と排風機が3機ずつある。1機で家庭用換気扇の約4700台分に相当し、4台所の計24機で換気するという。「船の換気設備はどうしてつるさいのに、ここは普通に話せる。すごい性能」。造り正さん(73)が感心した。目玉は、この後の関門橋の主塔登頂だった。しかし、この日は強風。主催する西日本

高速道路が直前に中止を決めた。福岡県中間市の会社員、柴田広志さん(46)は「関門海峡の絶景を見たくて申し込んだのに」とがっかりしていた。

代わりに関門トンネルのパトロットトンネルを見学した。試掘トンネルとして1939年に貫通し、現在は関門トンネルの地下水を抜くため使われている。

大人が頭をぶつけてしまうほど狭く、天井からボタボタと水がしたたる。地下約70mに広がった異空間に参加者は大興奮。北九州市の金丸蒼空(10)は「春休みのいい思い出になつた」と笑顔を見せた。

(山田菜の花)

冷気の中 嫁入り行列 湯田温泉で白狐まつり



7日の県内は冷えこんだ。みぞれ交じりの雨が降つた地域も。白いキツネがまた地元で始まった。夜に

潮	9日・小潮	10日・長潮
岩国港	柳井港	徳山港
満潮 4.15	3.47	3.30
干潮 15.25	14.58	14.31
潮 10.52	10.12	9.45
満潮 22.17	21.51	21.35
干潮 22.6	21.34	21.13
宇部港	下関港	仙崎港

文具に金魚愛 アイデア多彩



金魚ちょうちんがデザインされたノートが並ぶ店内=柳井市の木阪賞文堂

金魚、金魚、金魚。ノートに消しゴム、筆箱、鉛筆……。店に並ぶあらゆる商品に、まん丸な目にポカリと丸い口を開けた愛くるしい顔が描かれている。

地元、柳井市のシンボルである金魚ちょうちんの顔を正面か

なつて描いたデザインだ。いまや、木阪賞文堂のトレードマークになつていている。

街のシンボルをあしらった商品を次々と生み出す文具店だ。柳井市の「木阪賞文堂」。中には意外な先端技術が仕込まれたもの。地元への愛と飛びきりのアイデアがいっぱいの店を訪ねた。

古くから海上交通の要衝として栄え、江戸時代には商都としてにぎわった柳井。今も残る白壁の町並みは、往時をしのばせてこの一角に立つが、人通りに寂しさを感じるときもある。

地元で生まれ育ち、商いをする者として何か出来ないか。4代目社長の木阪泰之さん(55)が

実はこのノート、ほかにも工夫が施されている。スマートフォンに専用アプリを入れて表紙にかざすと、あら不思議。表紙の上に動画が流れ始めた。白壁の町並み、どこか懐かしい路地裏、暗がりにともるちようちん。美しく、郷愁を誘う風景が次々に映し出され、最後に「きちんと美しい柳井」の文字が浮かぶ。スマートフォンの画面上で、カメラを通じて映っている実際の風景に、写真やキャラクターや、文字など架空の視覚情報を重ねて表示する拡張現実(AR)の技術を用いた仕掛けだ。

最初に売り出したときは普通のノートだった。まもなく、大

丈夫はこのノート、ほかにも工夫が施されている。スマートフォンにかざすと、あら不思議。表紙の上に動画が流れ始めた。白壁の町並み、どこか懐かしい路地裏、暗がりにともるちようちん。美しく、郷愁を誘う風景が次々に映し出され、最後に「きちんと美しい柳井」の文字が浮かぶ。スマートフォンの画面上で、カメラを通じて映っている実際の風景に、写真やキャラクターや、文字など架空の視覚情報を重ねて表示する拡張現実(AR)の技術を用いた仕掛けだ。

木阪さんは、「やっている我々が楽しいのが大事。売れ残った

木阪さんは、「やっている我々が楽しいのが大事。売れ残った</